

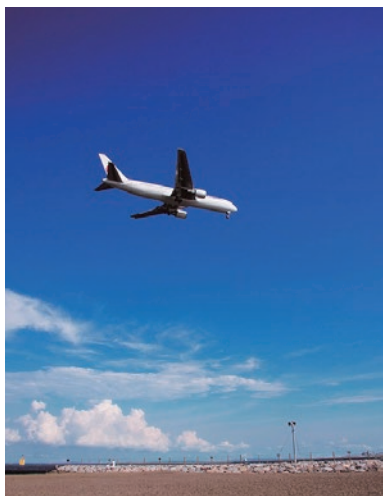
60th

Anniversary of the OTA Chapter

大田支部設立 60 周年記念誌



伝統を未来へ



CONTENTS

ごあいさつ	3
大田支部 設立 60 周年 特別対談	6
大田支部 近 10 年のあゆみ	10
数字で見る大田区	12
なつかしの大田区 Photo library	14
田園調布をつくった男 渋沢栄一	16
大田支部青年部 座談会	18
近 10 年 TOPICS	23
大田支部を支える方々	26

ごあいさつ

東京商工会議所
大田支部 会長

深尾 定男



大田支部は、区内事業者の要望を受けて、東京商工会議所の最初の支部として、1960 年 3 月 21 日に設立され、本年で 60 周年を迎えた最も歴史のある支部です。

長きに渡り、地域総合経済団体として活動を続けてこられましたのも、ひとえに今日の礎を築かれた歴代の役員・評議員・会員等の皆さま方のご協力、ならびに大田区をはじめ区内関係機関の皆様方のご理解とご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

設立以来、大田支部では区内事業者に寄り添った経営支援をはじめ、地域や業種を超えた事業者同士のネットワークの形成、区内産業のブランド力の向上、人材採用支援事業、取引拡大支援、先進事例の視察会、業種特性に合わせた分科会活動など、時代に応じた多様な事業を展開し、地域振興に努めて参りました。また学生へのキャリア教育支援のほか、青年部を組織して若手経営者の経営力向上を図り、大田区の未来ビジョンについて研究するなど、区内経済の未来を担う人材の育成にも尽力しています。さらに区内事業者の皆様の声を区政等に届け、施策への反映を実現して参りました。お陰様で、設立当初 111 件であった会員数は、現在は 3,435 件となりました。

この設立 60 周年を機により一層、区内産業の振興、事業者の発展に努めて参りたいと思います。また、今般の新型コロナウイルス感染症の影響による経済停滞や自粛、休業要請等により深刻な打撃を受けている事業者の皆様に、心からお見舞いを申し上げますとともに、地域一体となってこの困難を乗り越えて参りたいと存じます。

結びにあたり、今後とも大田区や各団体等の皆様からのご指導とご鞭撻、ならびに役員・評議員・会員企業等の皆様からのご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げます。

祝辞

東京商工会議所
会頭

三村 明夫



東京商工会議所大田支部 60周年に寄せて

大田区長

松原 忠義



大田支部の設立 60 周年を心よりお祝い申し上げます。

1960 年 3 月に東商最初の支部として設立され、以来今日まで中小企業の経営支援に精力的に取り組むとともに、東京都をはじめ大田区や関係諸団体と連携しながら、街づくりを推進するなど長きにわたり地域をけん引してこられました。その伝統と実績は、現在でも、他支部の模範であることに、いささかの揺るぎもございません。

深尾支部会長や役員、評議員の皆様、これまでの歴代支部会長ならびに支部運営に関わっていただいた多くの皆様に対し、改めて敬意を表するとともにご支援賜りました大田区をはじめとする関係各位に深く感謝申し上げます。

私は会頭就任以来、取り組んでおります「現場主義・双方向主義」の一環として、国内有数のものづくりのまちである大田支部管内の町工場を見学させていただき、時代の発展を支え続ける高度な技術と新しいものを生み出す中小企業の力を体感いたしました。近年では、人材不足解消に向けた「企業と学生・学校をつなぐ取り組み」や、ビジネス交流と相互発展を推進する「川崎商工会議所との友好提携」に取り組まれるなど、大田支部は地域の活性化に重要な役割を果たしておられます。

さて、新型コロナウイルスは世界経済に深刻な打撃を与え、過去に経験のない極めて深刻な状況をむかえています。東商では事業継続と感染症拡大防止に向け、政府や自治体による手厚い支援策の早期実行を訴え実現してまいりましたが、今後も総力を結集し手を携えて力強く前進してまいりたいと考えております。

大田支部の皆様が、この危機を乗り越えるために、より結束を強められ、地域活性化の担い手として益々活躍されますことを祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

東京商工会議所大田支部の設立 60 周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。東京商工会議所において最も長い歴史を持つ貴支部におかれましては、日頃より本区の産業施策展開に多大なるご理解とご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

大田区は 73 万を超える人口を擁し、23 区で最大の面積を持つ、全国的にみても大規模な自治体です。「大田区産業のまちづくり条例」では、冒頭「大田区は産業のまちである」と述べており、高度なものづくり企業の集積、都内最多の商店街など「東京の縮図」ともいわれる住工調和のまちが形成されています。

そうした中、区は、本年 7 月に羽田空港跡地第 1 ゾーンに整備された羽田イノベーションシティ内に「HANEDA×PiO（ハネダピオ）」を開設いたしました。区内企業をはじめ、国内外大手企業、中堅企業、大学、研究機関、起業家、スタートアップなどの多様な主体が交わることで生み出される新たなイノベーションを、全国・世界へと発信する「新産業創造・発信拠点」として、また区内産業への波及効果を十二分に発揮できる空間として、皆様とともに育ててまいります。

貴支部におかれましては、これまで「区内産業の牽引役」として、重責を果たされてまいりました。今回のコロナ禍においても、区内産業界が一致団結して立ち向かうことで、必ず乗り越えていくことができると信じております。

区といたしましても、大切なパートナーである貴支部とともに、区内産業の力強い発展と、区民生活の向上に引き続き全力で取り組んでまいります。

結びに、貴支部のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝・ご活躍を心より祈念し、お祝いのあいさつとさせていただきます。

大田支部 設立60周年

特別 対談

大田支部 前会長

浅野 健

(株金羊社 会長兼社長)

大田支部 会長

深尾 定男

(株巴商会 社長)

多様な顔を持つ大田区の未来 たくさんの可能性を応援したい

大田支部設立60周年を記念して、
昨年11月に第8代会長に就任した深尾定男会長と浅野健前会長に、
大田支部と大田区の過去・現在・未来を語っていただきました。

(取材2020年9月30日・株巴商会にて)

60周年を迎えて

深尾 時代の移り変わりの中で、60年間にわたって東京商工会議所大田支部の発展のため努力された歴代会長はじめ諸先輩方のご努力に敬意を表したいと思います。大田支部の会員の皆さんも2代目、3代目の時代かと思いますが、厳しい時代に負けることなく事業を継続してこられたことを考えますと、事業者の皆さんの不屈の精神と強い絆を思わずにいられません。またそこに、大田区という地域の特性や強さを感じております。

浅野 60年前といえば私が小学校卒業の頃ですが、戦後の混乱期から立ち直り製造業が活気を持ち始めた時期です。その中で、東京で最初に支部を立ち上げた先人たちの努力に改めて感銘を深くしております。6年間会長を務めさせていただいたことで、大田区が東京の中でもいかにナンバーワン、オンリーワンの多い地域であることかを再認識しました。さまざまな顔がある中で、大田支部として製造業だけでなく、大田区そのもののブランディングに取り組み、「大田ブランド」の認知を高めていくためにいろいろな活動をしたことが印象に残っています。

地域特性を踏まえたまちづくり

深尾 大田区には大森貝塚をはじめ多くの歴史文化遺産があります。閑静な住宅街、田園調布や馬込の文士村なども貴重な歴史文化遺産です。製造工場の数は最盛期からは減っていますが、おそらく東京一でしょう。それらを大事にしているのは大田区に住む人たちです。大田支部は商店街、町工場、文化遺産などが共存する地域特性を踏まえた活動をしていきたいですね。

浅野 羽田空港の近接地としての特性もありますね。新しく開設された羽田イノベーションシティ（HICity）が今後の新産業創造発信拠点としてどのように機能していくのかに期待はあります。下町ポブスレーはものづくりパワーの成果でした。大田区はもっと情報発信力を高めていかなくてはなりませんね。マスコミの取材は「円高で困っている町工場」とか「円安で苦しんでいる中小企業」という角度でしか大田区を見ていないのが残念です。

深尾 若い世代のセンスや発想力で情報発信を強めていったり、近い将来、HICityから「大田の未来」を世界に向けて発信してほしいですね。

浅野 例えばニューヨークを未来像のベンチマーク（指標）とするくらいでないといけないと思います。

深尾 私が大田区で仕事をするようになって驚いたことは、「とにかく大田区が大好き」という自分のまちを愛する人が多いことでした。そういう方たちの2代目、3代目が活躍して「大田ブランド」を育て上げてきたのですね。HICityの開設もあり、新しい「大田ブランド」の開発やその活用について大田支部としても取り組んでいきたいと思います。



国際的なダイバーシティ

浅野 HICityは、将来的には世界をリードする国際産業拠点となることが期待されています。もちろん実現させるためにはまだまだ課題は多いかと思えます。大田区が国際都市になるのかというと、私はむしろ国際的な多様都市なのではないかと思っています。ニューヨークだって国際都市とは言っていない。大田区は「ダイ

バーシティ」という言葉がぴったりくるような気がします。

深尾 現時点ではインパウンドは減少してはいますが、羽田空港の国際化が進めば、近い将来、真の国際空港となる日が来ることが期待できます。そうなると空港のある大田区の存在は今以上に重要になってきます。航空便の乗り継ぎのトランジットも羽田と大田区内を結ぶ大事な要素です。海外からの旅客がトランジット時間を有効に過ごせる受け入れ態勢を整えることもこれからの大きな課題です。羽田を出て大田区内で楽しく食事をして空港に戻る、あるいはエンジョイできる空港施設が整備されている。そうなればシンガポール空港のようにトランジットが楽しく充実したものになります。

浅野 羽田空港の再国際化と大田区の関係はますます密接なものになっていくでしょうね。今、新型コロナウイルス感染症の影響でいったん立ち止まってはいますが、じっくり考える時間ができたと前向きにとらえたいと思います。

深尾 国際化といえば、大田区は外国人居住者も増え続けています。これからも増えていくとなると外国人子弟の教育問題も大きな課題です。例えば日本語教育など、当支部としても取り組んでいく必要がありますね。

商・工・学の融合で地域振興

浅野 駅前開発も大きな課題です。地域振興は「商と工の融合したまち」という大田区の特徴を踏まえて考えていくべきでしょうね。大田支部としては商と工の橋渡しが必要かと思えます。また、川崎など他の地区との連携も大事です。昨年10月に友好提携を締結しばかりですし、池上本門寺と川崎大師の門前のくずもちの食べ比べなんて楽しいじゃないですか。

深尾 「商」と「工」にもう一つ「学」を加えてもいいかもしれません。大田区内には東京工業大学大岡山キャンパス、東京工科大学、東邦大



学、専門学校では日本工学院専門学校などがあります。商・工・学が融合して地域の発展につながる力が生まれれば心強いですね。

浅野 大田区で学んだ人たちが、もっと大田区で起業してほしいと感じます。大田支部としては、そうした仕組みを考えていく必要があるかもしれません。

深尾 私は就任したばかりですから、浅野さんがおやりになってきたことをさらに発展させ、若い世

代の皆さんの提案も取り入れながら、大田支部の発展を目指していきたいと思います。そのためには大田区の多様性とそれぞれの可能性を一つひとつ確かめて支部活動に生かしていきたいと考えています。

浅野 可能性といえば医工連携もその一つです。大学や医療のエンジニアリングのニーズと大田区のものづくりパワーを結び付けることです。法規制などハードルはありますが、これからの研究すべきテーマだと思います。

深尾 医工連携は「商・工・学」の具体的なテーマになりそうです。今後の発展に期待したいですね。大田支部と大田区の未来には実にたくさん可能性があることがわかりました。ものごとを一つにまとめていくことは決して容易なことではありませんが、皆さんの夢の実現に、大田支部としても課題の一つひとつに取り組んでいかなければならないと考えています。

さらに光る大田支部に

浅野 私は6年間会長を務めて、東商の本部と支部は車の両輪だということがわかりました。もともと商工会議所は商工業の改善・発展のための経済団体です。東京23区の中でも大田区は指折りの「商」と「工」のバランスの取れた地域です。こんな区は他にありませんから、他の支部のお手本となるような「光る支部」として、もっと本部で活躍する人が増えてほしいですね。

深尾 大田支部の皆さんは、このコロナ禍においても元気な方ばかりだと感じます。とくに青年部など若い人たちのパワーは頼もしい限りです。地域の組織や各業界団体ともよく連携して100周年に向かい、「さらに光る大田支部」を目指して活動していきたいと思います。浅野さん、6年間ご苦労さまでした。

浅野 深尾さんの活躍に期待しております。

大田支部 近10年のあゆみ

- ▶ 大田支部・大田区の活動・出来事
- ▶ 東京商工会議所の活動
- ▶ 国内外の出来事

2014 (平成26) 年

- ▶ おおたグッズ開発プロジェクト実施(3月)
- ▶ 消費税率が5%から8%へ引き上げ(4月)
- ▶ 組織強化委員会発足、蒲田・大森・雪谷の3地区本部を設置(4月)
- ▶ 「大田区における産業集積の維持発展に関する意見」を提出(11月)
- ▶ 花子とアン推進委員会活動に参画(11月)
- ▶ 小規模事業者持続化補助金新設、申請相談開始(11月)



2012 (平成24) 年

- ▶ 梅ちゃん先生推進委員会を組織(4月)
- ▶ 下町ボブスレー試作第一号機が初戦優勝(4月)
- ▶ 東京スカイツリー開業(5月)
- ▶ 京急本線と空港線全線高架化完了(10月)



下町ボブスレー記者会見*

2011 (平成23) 年

- ▶ モノづくりのまち観光マップを発行(3月)
- ▶ 東日本大震災発生(3月)
- ▶ 第8回中小企業都市サミット(おおたサミット)開催(8月)
- ▶ 区のマル経利子補給制度開始(30%)(10月)
- ▶ 東京都事業引継ぎ支援センターを開設(10月)



第8回中小企業都市サミット*

区制70年

2016 (平成28) 年

- ▶ 全国に先駆けて特区民泊を実施(1月)
- ▶ 第10回中小企業都市サミット(尼崎サミット)に参加(8月)
- ▶ 夢科フォーラム閉館(11月)



特区民泊認定書交付式*

2013 (平成25) 年

- ▶ 第9回中小企業都市サミット(墨田サミット)に参加(8月)
- ▶ 2020年東京五輪招致決定(9月)
- ▶ 浅野健氏(㈱金羊社 社長[当時])第7代支部会長に就任(11月)
- ▶ 三村明夫氏が第21代東京商工会議所会頭に就任(11月)

2018 (平成30) 年

- ▶ 大田支部青年部設立(3月)
- ▶ 大田ブランド推進協議会解散(3月)
- ▶ 事業承継税制抜本改正(4月)
- ▶ 第11回中小企業都市サミット(川口サミット)に参加(10月)
- ▶ 東商創立140周年・新ビル落成記念式典(12月)
- ▶ 東商新ビル視察会を実施(12月)



東商新ビル視察会

2017 (平成29) 年

- ▶ 東京商工会議所青年部設立(3月)
- ▶ 若手経営者・経営幹部育成事業開始(4月)
- ▶ 120年ぶり民法大改正(5月)
- ▶ 大田区シティブロモーション戦略策定へ区と意見交換(7月)

2015 (平成27) 年

- ▶ ビジネスサポートデスク4拠点設置完了(4月)
- ▶ 中央環状線全線開通(3月)
- ▶ 大田区の「地域ブランド力」向上に関する要望を提出(12月)



大田区の「地域ブランド力」向上に関する要望を提出

2020 (令和2) 年

- ▶ 新型コロナウイルスが世界的に流行。東京五輪1年延期(3月)
- ▶ 区のマル経利子補給割合30→40%に(4月)
- ▶ 羽田インノベーションシティがまちびらき(7月)



羽田インノベーションシティ*

2019 (令和元) 年

- ▶ 元号が令和に(5月)
- ▶ 川崎商工会議所と東商大田支部との友好提携に関する覚書を締結(10月)
- ▶ 消費税率が8%から10%に引き上げ(10月)
- ▶ 都立六郷工科高校PTAによる町工場見学会を実施(11月)
- ▶ 深尾定男氏(㈱巴商会社長)が第8代支部会長に就任(11月)
- ▶ 新空港線の早期整備に関する要望を提出(12月)



川崎商工会議所との覚書を締結

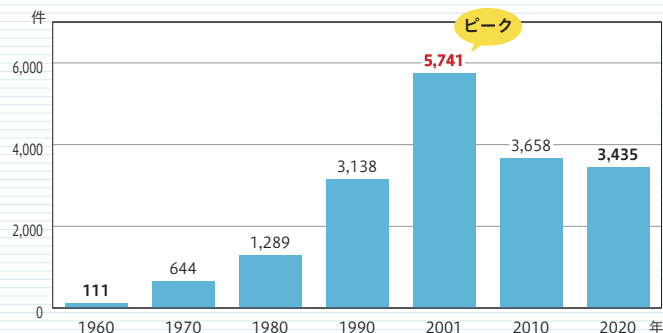


新空港線の早期整備に関する要望を提出

数字で見る大田区

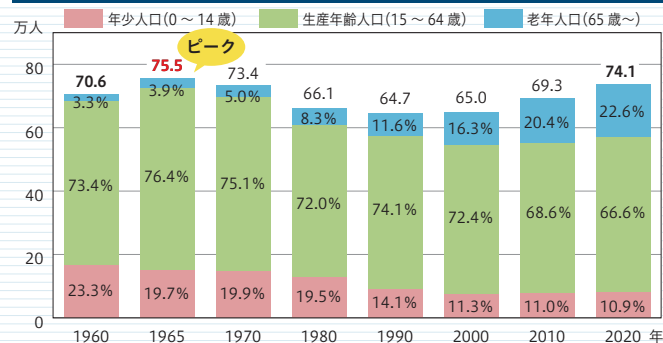
大田支部と大田区の60年の推移

東京商工会議所 大田支部の会員数



出典：東京商工会議所・事業報告書、3月末時点

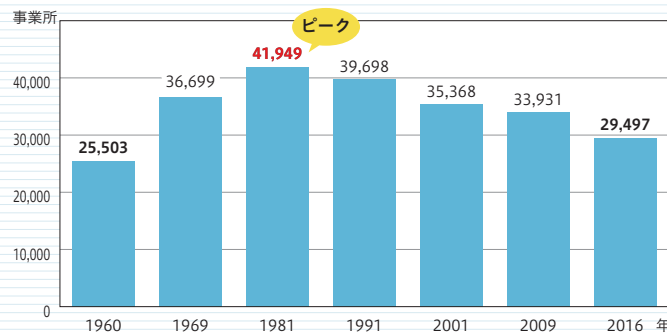
大田区の人口



年少人口は半減、老年人口は7倍でも、総人口、生産年齢総人口は高水準。
外国人登録者数は60年間で4倍に！(6,838人→25,287人)

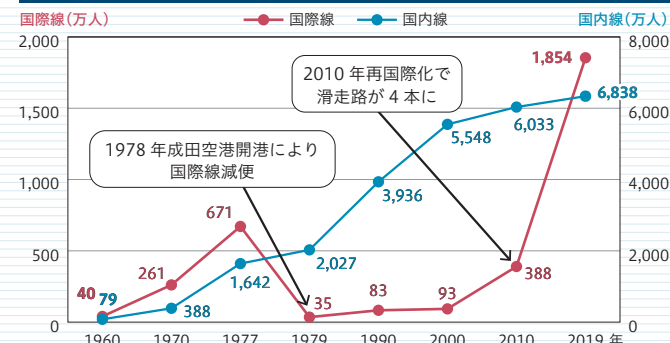
出典：大田区人口推計（国勢調査）、10月1日時点、2020年のみ推計

大田区の事業所数



出典：東京都の統計(事業所・企業統計/経済センサス)、1960年は6月、69～91年は7月、2001年～は10月

羽田空港旅客数



2019年着陸回数は国際線 4.4 万便、国内線 18.4 万便。

出典：東京都の統計（全日本航空事業連合会、国土交通省、暦年データ）

23区ランキング

面積

1位
60.83km²

2位：世田谷区 58.05km²
3位：足立区 53.25km²
(国土地理院、2020.1.1)

人口

3位
741,554人

1位：世田谷区 943,870人
2位：練馬区 744,108人
(東京都の人口(推計) 2020.10.1)

製造業事業所数

1位
3,068

2位：墨田区 2,154
3位：葛飾区 2,131
(東京都総務局統計部「2016東京の工業」)

運輸、郵便業事業所数

1位
1,404

2位：足立区 1,294
3位：江戸川区 1,178
(2016 経済センサス)

商店街数

1位
145

2位：世田谷区 134
3位：杉並区 132
(2016年度 東京都商店街実態調査(産業労働局))

小規模事業者数

1位
18,053

2位：世田谷区 15,661
3位：新宿区 15,497
(2016 経済センサス)

面積は1960年は41.7km²、埋め立てにより拡大。その他、不動産物品賃貸事業所数(2,989)は

2位、建設業事業所数(2,164)、医療、福祉事業所数(2,269)は3位。(2016 経済センサス)

大田支部が設立されたのは、GHQ に接收されていた羽田空港が全面返還されたわずか2年後のことです。4年後に控えた東京五輪のための港湾整備で、大森・荏谷・羽田地区で見られた海苔の養殖ができなくなったのもこの頃です。広い海苔干し場は住宅や工場が密集する商業・工業地域を形成し、臨海部の埋立地にはトラックターミナルやコンテナふ頭、市場などの物流施設のほか工場団地が整備されました。

比較的緑の多い台地部が住宅地として人口を支え、戦後のベビーブーム世代が消費を倍増させました。8年後に日本のGNPはアメリカに次ぐ第2位となり、高度経済成長期はこの後15年続きます。



西六郷のタイヤ公園 1971年*



蒲田本町二丁目にあった旧大田区産業会館。1960年3月落成開館。大田支部は4階に入居し、4月に開業。現在の大田区産業プラザPiO（南蒲田一丁目）に役割を移し、1996年閉館。現在は大田区役所 蒲田地域庁舎。写真は1972年*



大森駅山王口前 1961年頃*



大森（東京湾）の海苔の収穫 1963年*



池上通り・中央2丁目 1962年*



工事中の蒲田駅、後方は建設中の蒲田東急ビル 1967年12月
写真提供：東急(株)



1960年頃の羽田空港
写真提供：NPO 法人羽田航空宇宙科学館推進会議

田園調布をつくった男 渋沢栄一

東京商工会議所初代会頭を務めた渋沢栄一は、2021年のNHK大河ドラマや新一万円札の顔として今注目を集めています。その渋沢栄一が大田区きっての住宅街である田園調布の生みの親であることをご存知でしょうか。大田区と渋沢栄一の関係をご紹介します。



渋沢栄一（1840-1931）
東京商工会議所 所蔵

日本型田園都市を目指して

「人は到底自然なくして生活できるものではない」

後年、渋沢栄一が残した言葉には、渋沢が理想としたまちづくりの思いが込められています。

明治から大正期にかけて「論語と算盤」の精神で近代化する日本経済の牽引力となった渋沢栄一。官界引退後は500の会社創設に関わった実業家として知られていますが、その晩年の仕事現在の大田区田園調布をつくりあげた田園都市構想でした。

渋沢は19世紀末にイギリスで提唱された住職近接の「田園都市論」をベースに、緑豊かな住宅都市として「日本型田園都市」の建設を目指し、1918（大正7）年に田園都市（株）を設立しました。渋沢の四男、秀雄は栄一の意を受けて欧米11カ国を視察し、学んだ理念や設計・デザインを計画に生かしました。



中世ヨーロッパの民家を模した
田園調布駅旧駅舎（復元）
写真提供：大田区

田園都市（株）には、筆頭株主の矢野恒太（第一生命創業者）、関西で宝塚住宅地を開発した小林一三（阪急阪神東宝



田園都市建設につき、地主有志が渋沢栄一郎を訪問した時の記念写真（1915年3月）*



1932年の田園調布*

グループ創業者）などそうそうたる人物が名を連ねていました。小林により鉄道院出身の五島慶太が起用され、目黒蒲田電鉄（現東急（株））の専務に就任し事業を推進しました。

自然と安全のあるまち

「田園都市建設として無二の好適地」として洗足、大岡山、多摩川台など現在の田園調布に含まれる約100万㎡（30万坪）の用地が買収され、1922（大正11）年6月に洗足田園都市、翌1923（大正12）年8月に多摩川台住宅地（現田園調布）の分譲が開始されました。その1カ月後に関東大震災が発生。人口の密集する地域が壊滅的な被害を受けたのに対し、田園都市地区はほとんど被害がありませんでした。郊外型住宅地の安全性が証明され、震災を機に市内から自然と安全を求めて移り住む富裕層が急激に増えていったのです。

現在の田園調布は広さ約205万㎡（約63万坪）、人口約2万人の大田区が誇る高級住宅地として発展しています。



田園調布駅西口から放射線状に広がるイチヨウ並木は大田区の黄葉スポットのひとつ



目黒蒲田電鉄重役一行。右から5人目が小林一三、一番左が五島慶太（1923年）*

大田区発信で日本を変えていこう！

大田支部青年部は2018年3月の設立
大田支部の将来を担う青年部の皆さんに、大田区の魅
(取材2020年9月15日)

以来、精力的に活動を展開しています。
力や課題、未来について語り合っていました。
・(株)POOL DUCKにて)



幹事長 (2代)

山下和幸

(株)POOL DUCK 社長)

副幹事長

舟久保利和

(株)昭和製作所 社長)

副幹事長

馬場宏二郎

(サンユ-建設(株) 社長)

初代幹事長

海老名伸哉

(エビナ電化工業(株) 社長)

太いパイプでつながれた仲間たち

——青年部設立の経緯からお伺いします。

海老名 2015年に2020年ビジョン委員会と情報コミュニケーション委員会という2つの委員会ができ、そこから発展し2018年3月に青年部が設立されました。入部資格は部員の推薦のある50歳以下の大田支部会員で、現在21名が在籍しています。大田支部青年部は大田区の中では最後発ともいえるスタートでしたが、だからこそ他とは違う青年部にしたいと思い、新しく起業した経営者にも入っていただき、若い人たちが挑戦していくような会を目指しました。そのために一番“東商らしくない人材”として山下さんを誘ったんです。

山下 暴れてもらって結構だと言われて入部しました(笑)。2代目幹事長としては単なる勉強の会にとどまらず、何かを興していきたいですね。青年部は海老名さんと私が中心となった2つのチームで

活動しています。海老名さんのチームは大田区のシンボリック的存在となるアリーナを誘致することを目標に動いています。私のチームは人をつなげることがミッションです。一人ひとりの経営者が仲間として、困った時にさりげなく相談できるような関係を築いていきたいですね。太いパイプをつくっていけばつづれる会社もなくなってくるし、5年後、10年後にはすごく大きな渦になっているんじゃないかと思います。

受け継ぐものと新しいものの融合

——皆さん3代目と伺っていますが、事業承継についてどうお考えですか。

馬場 事業承継には創業とは違う苦労があると思います。親子だからこそできること、また反対にぶつかることがあります。大田支部では3代目、4代目の社長が増えていて、同年代の経営者は皆さん同じような悩みを抱えています。そんな悩みを皆で共有し乗り越え

ることがエネルギーにもなる。受け継がれてきたものと新しく生み出されるものの価値をうまく融合させることが、これからの大田区をつくっていくのではないのでしょうか。

舟久保 ピーク時に9,000社以上あった大田区の製造業は2016年には3,068社となっています。今は町工場の再評価が必要とされている時ではないのでしょうか。東商は異業種の人たちと出会える場です。今までとは違うアプローチの仕方や考え方を知ることができて刺激を受けます。

海老名 時流に合わせて会社を変化させ、発展させていかなければいけないのが事業承継の難しさですね。

山下 私は自身で起業した学習塾や飲食の会社を長年経営しています。自分の子どもが全部の事業を継がなくても、やる気のある社員から後継者を育てていければいいと思っています。また、私の実家は祖父の代から67年続く小さな町工場ですが、新型コロナウイルス感染症の広がりをきっかけに家業も継ぐことを決めました。町工場のイメージを若者がここで働きたいと思うようなクリーンでカッコいいものにしていきたいですね。

小さいからこそ価値を生かす

——大田区の強みと今後の課題は何でしょうか。

山下 町工場には小さいからこそ価値があります。これからはそれぞれのスペシャルな人たちがチームを組み、メイドイン大田をつくっていく時代になると思います。

舟久保 例えば下町ボスレー。このプロジェクトは2011年に始まって私は2代目推進委員会※委員長を務め、今4代目に引き継がれています。大田区の強みはいろんな会社があって、そのネットワークの強さが発揮される時にすごさが生まれるところにあります。危機感を持って地域のために何とかしたいと思っている私たち世代の経営者はすごく多くて、みんな常に発言がポジティブです。大田区を愛している人たちがすごく多いと感じます。

山下 一方で、かつて町工場だったところがどんどんマンションになっているよね。

舟久保 倒産ではなく廃業が多い。プラスで終われるうちに終わろうという。でもそれはある種自然な流れともいえると思います。

馬場 大田区は全国的に見ても工業専用から低層住宅まで、多くの用途地域がある珍しい地域です。現在までものづくりで栄えてきたまちからの転換期になってきていると感じます。

山下 皆さん、本業のほかに旅館とか賃貸とかいろいろやっ



2019年9月青年部深谷視察会 渋沢栄一記念館で

すよね。多角経営は必要だと思います。

馬場 大田区の問題として、工業地域にマンションが建つと、工場の音がうるさいといわれるんです。そうすると工場が居づらい環境になってくる。例えば田園調布とか洗足池のあたりは風致地区ですけど、準工業地域としての風致地区条例が必要になってくるのではないのでしょうか。または羽田イノベーションシティ（HICity）の新しい施設の中でやっていくなど行政に道筋を立てていただきたい。

町工場の存在意義を考える

舟久保 もともとは大企業が近く、部品の供給がしやすいということで増えてきた町工場ですが、大企業が地方に行ってしまった今、近くにあってもよかったと周りの住民から言ってもらえるような、社会的な存在意義をどうつくっていくのかが問われている時だと思います。例えば子どもたちの勉強の場や災害時の避難場所など、地域で何かあった時の受け入れ先という役割はありますね。

山下 HICityは、たくさんの人たちを仲間にして新しいものが生み出されていくことを期待します。特区として、隔たりをなくしてみんなが仲良くなる場所をつくっていかねばと思います。

海老名 HICityでは、どうやって自分たちの付加価値を出すのが課題です。今まで知り合えなかった人との出会いや気づき、価値観の共有ができる場所にしなければいけないと思っています。

大田区を“オセッカイ区”に

——大田支部創立100周年を迎える40年後は、どのような大田区になってほしいですか。

馬場 ここに生まれた人たちが、やっぱり地元はいいよねと思えるまちになってほしいですね。地元愛を持てる経営者や子どもたちが増えていくのが夢です。

舟久保 いろんな業界が肩を組んで、人と人がしっかりとつながっているコミュニティになっているといいですね。

海老名 HICityも40年経っていることになります。若い人たちの挑戦を後押しするような文化ができてほしいです。

山下 大田区で生まれ育って大田区で働くというような、人が循環するまちになってほしいと思います。防災のことを考えても、家と仕事場が近いのは理想です。

海老名 そういう人たちを企業としてサポートできるような仕組みもつくりたいですね。とくに教育。「国際都市おおた」ですから、海外に出て勉強する人ももっと増やしていかないとはいけません。

山下 大田区の子どもたちのための奨学金制度を私たちのような企業でつukれないかという話もしています。未来を担う子どもたちのために何ができるかを考えていきたいですね。

馬場 大田区には中小企業がたくさんあり、一つひとつは小さいかもしれないけれど、教育のため、地域のためとなった時にそれぞれが必要となるところに仲間が集まって良さを生かしながらプロジェクトが動いていく。アメイバーのように時によっては立場を変え、形を変えながらいろんな角度からみんなが協力していく。そんなつながりができたらすごく面白いと思います。

山下 そうした取り組みがうまくいけばモデルケースになるし、大田区がさまざまな地域をサポートしていけると思います。大田区発信でほかの地域にもかかわっていく“オセッカイ区”として、これからの日本を変えていきたいですね。



近10年 TOPICS

2011年3月

東日本大震災により甚大な被害

日本の観測史上最大規模のマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、東北地方と密接な関係を持つ東京・首都圏においても、サプライチェーンの分断、原発事故に伴う電力の供給不足・風評被害等により経済活動が萎縮・停滞しました。東商では緊急調査を行い、会員企業の実態把握に努めるとともに、全会員に節電・義援金の拠出等を要請しました。さらに震災関連緊急要望を政府等に働きかけるとともに、被災地商工会議所と連携した遊休機械等の無償マッチング支援や物産展などの事業を展開しました。



東日本大震災直後の蒲田駅周辺
写真提供：大田区

2012年10月

京急本線・空港線が全線高架化

京急本線（平和島～六郷土手）の4.7km、空港線（京急蒲田～大鳥居）の1.3kmの高架化が完了しました。28カ所の踏切が除去されたことで、環状8号線と国道15号線の慢性的な交通渋滞が解消されました。また空港線の品川方面および横浜方面との直通運転により羽田空港へのアクセスが飛躍的に向上しました。



切替途中（2009年12月）



切替工事当日の様子（本線）



切替工事当日の様子（空港線）
写真提供：京浜急行電鉄㈱

2019 年 11 月

高校 PTA を対象とした町工場見学会を実施

「高校生の就職には生徒自身の意思のみならず、教員や保護者が後押しをする影響力も強い。中小企業に対する相互理解を深めることが必要」という声をもとに、都立六郷工科高校の PTA を対象として町工場見学会を初めて実施しました。技術や技能の高さのほか若手人材の育成に力を入れる企業を見学した後、PTA と社長が求める人材像や社員教育などについて意見を交換しました。
(見学会協力企業：(株)クライム・ワークス(左)、(株)昭和製作所(右))



見学会の様子



意見交換会

2020 年 2 月～

新型コロナウイルス感染症流行で 60 周年記念行事が中止

2020 夏季五輪開催という好機に恵まれ、支部設立 60 周年事業はオリンピック・パラリンピアンを招いた新年賀詞交歓会から始まりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行を受けて、ボッチャ大会や記念式典など多くの目玉企画をはじめ、感染リスクのある事業を中止しました。感染対策の徹底により一部事業を再開させるまでは、コロナによる深刻な影響を受けた中小企業への経営支援と区政への区内経済回復に向けた要望活動に注力しました。



新年賀詞交歓会 北京オリンピック・体操・銀メダリスト 坂本功貴氏(左)と平昌パラリンピック・アイススレッジホッケー日本代表 堀江航氏(右)



オリパラブース



相談会入口

2020 年 7 月

羽田イノベーションシティ(HICity)がまちびらき

「新産業創造・発信拠点」として、天空橋駅に直結する、商業・オフィス等をかかえる大規模複合施設が先行開業しました。大田区による区施策活用スペース(HANEDA × PiO)も併設され、高度なものづくり産業の集積や羽田空港がある大田区に、国内外の多くの産業関係者が集い交流する新しい産業モデルのプラットフォームとなることが期待されています。敷地面積は約 5.9ha、延床面積は約 13 万 m²。グランドオープンは 2022 年を予定しています。



まちびらきした羽田イノベーションシティ
写真提供：大田区



京急、東京モノレールは「HICity」を新設
写真提供：京浜急行電鉄(株)

四半世紀続く「優工場」制度

大田区の工場数は 1983 年(9,177 工場)をピークに、工場制限三法の規制等もあり、大手企業を中心に工場を国内各地方へと移転し、跡地にはマンションや戸建て住宅が建設されました。以降、大田区で工場を操業する経営者は、区民に対する「住工調和」の配慮や、時代に即した経営をより一層求められることになりました。このような背景のなか、人に優しい(働きがいのある労働環境)、まちに優しい(周辺環境との調和)、経営や技術に優れ、お手本になる工場を表彰・PR する大田区「優工場」を 1995 年に創設しました。今日まで毎年実施し、再認定(認定期間は 5 年)を含めると延べ 270 社が「優工場」に認定されています。



大田支部を支える方々（2020.11.30 現在）

（省略）

（省略）

(省略)

(省略)

(省略)

(省略)



東京商工会議所大田支部設立 60 周年記念誌

発 行：2020 年 12 月

発行人：深尾 定男

発行所：東京商工会議所大田支部

〒144-0035 東京都大田区南蒲田 1-20-20 大田区産業プラザ 5 階

TEL：03-3734-1621 FAX：03-3731-9801

<https://www.tokyo-cci.or.jp/ota/>

表紙、P2、31 の写真：大田区提供（渋沢栄一は東京商工会議所所蔵）

